

平成22年度 【大学振興会研究奨励補助】研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ イソベ キンジ
氏名 磯部 錦司

研究期間 平成22年度

研究課題名 プラハ芸術交流事業—アートをとおした感性の教育とその実践—

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	磯部錦司	教育学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等

2004年より、アートをとおした交流活動をプラハとの関係において展開してきた。その発展として、プラハで活躍する音楽家の演奏や作家の作品が、大学や小中学校の授業の中へも還元され、交流事業として広がっていくことを願い実践研究を試みた。

また、これまで取り組んできたチェコと日本の子どもたちによるアートをとおした交流活動“アート・プロジェクト—Dialogue of Life—”が、芸術教育としてだけでなく、異文化理解教育や持続可能教育としていかされていくよう、「総合教育としての芸術」のあり方を示したいと考えた。

2. 研究方法等

プラハとの交流活動において以下のプログラムを実施し、学生や子どもたち等、参加者の感想や作品から、社会的創造活動として芸術教育を意味づけ、その方向を示す。

- ・プラハ芸術の体験「色と音のコラボレーション—」（教育学部）

プラハ在住の音楽家を招き、授業においてその音を作品に表わし、その映像を背景にコンサートを催し、色と形をとおして音への感じ方を深める。

- ・プラハの芸術をとおした教育の紹介「写真展・シンポジウム“プラハのシュタイナー学校”」
プラハ在住の写真家を招き、感性をとおしたシュタイナー教育の現状を紹介し、そのシンポジウムを催す。

- ・アートをとおした交流活動の実践「アートプロジェクト“Dialogue of Life”」（附属小学校、プラハミュージアム）

「いのちのイメージ」をテーマにアートをとおしたワークショップを両国で実施し、子どもたちのアートによって共同制作をおこない、その活動や発表をとおして、人や自然に対する見方や感じ方を広く発信していく。

3. 研究成果の概要

○「色と音のコラボレーション―“マルティン クレハナツ” クラシックギター コンサート―」

プラハ在住のクラシックギタリストのマルティン氏を迎え、その音楽を題材に、事前に曲のイメージを授業とゼミにおいて絵画で表現し、その映像をステージのスクリーンに交えながら、実際に相山女学園においてコンサートを開催した。作品制作では、教育学部約 180 名が参加し、コンサートでは内外から 100 名の参加者があった。

○「プラハのシュタイナー学校」写真展とシンポジウム

プラハ在住（現在スロバキア在住）のジャーナリストで写真家の増田幸弘氏を迎え、学内において写真展とシンポジウムを行った。氏は、中日新聞に連載された同タイトルの著書の出版にあわせ来日され、その期間にあわせ催した。写真展は、プラハのシュタイナー学校を題材に増田氏が撮られた内容から展示した。その期間中に、同タイトルで学内を会場にシンポジウムを催し約 100 名の参加者が学園内外からあった。

○「アート・プロジェクト “Dialogue of Life”」

附属小学校等でワークショップを実施し、その作品を用いプラハの子どもたちとで協同制作を完成させ、その作品を中心に、プラハ市立ミュージアムにおいて、これまでの写真や映像、作品によってドキュメント展を開催した。また、期間中、プラハ市内の小学校とその会場において、ワークショップを実施した。その活動と展示をとおし、子どもたちは、他国の人や自然に対する感じ方や見方を深め、その見方や感じ方を作品とドキュメントによって、社会に発信した。

4. キーワード

①芸術	②アート	③美術教育	④異文化教育
⑤持続可能教育	⑥生命観	⑦自然観	⑧

5. 研究成果及び今後の展望（公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。）

・磯部錦司「生命主義的自然観を基軸とした芸術による教育―コアとしての〈生〉―」美術科教育学会、2011年3月26日

・ドキュメント展“Dialogue of Life―和紙をとおした日本とチェコの子どもたちによる生の共有―” プラハ市ミュージアム、チェコ日本友好協会主催、2011年2月14日～19日